

刊夕日九廿月三



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
廣告料 五元 十元 二十元 五十元 一百元  
印刷費 別定  
電話 東京 六三〇三  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

### 雨と人生 (二)

眞 繼 雲 山

名利の巷に慌たゞしく跳ね返つてゐる如き現代人には、天來の雨を注いで、先づ静かであれと教ゆる必要がある。

これを佛説に見るに、普門品には「樹甘法雨、滅除煩惱」とありて甘露の法雨をそゞがるゝとき、煩惱の煩はすなはち滅除せらるゝのである。同じく法華經藥草品には「佛の平等の説は一味の雨の如し我れ法雨を降らして世間に充滿す」とありて、一雨の及ぶところ根莖枝葉みな鮮澤せらるゝことあり、これは是れ佛の大悲を雨に比したのであるも雨それ自體も亦た浮薄な人心を禪定の世界に導くべき佛縁あり。

かつて印度の詩聖タゴールは先年遙るゝ海を越えて櫻咲く日本にあこがれて來た。彼れの高調する「有閑哲學」とは何でありしぞといふに、要するに「人間よ閑あれ」といふことであつた。成るほど時間は大切であり、寸陰惜むべしといへども「時に金なり」とする亞米利加から、金はくさるほど生れるかも知れぬが、そこに禪定はなきゆゑ解脱の

天地は展べられない。

私は金を厭ふ言とはざるもむしろ静寂を好み、出離を求むる。静寂は雨のおとづれによつて恵まれる。この故に仁者は山、智者は水、凡人としての私はひとへに雨を愛する。しとく〜と降る雨の音を窓外に眺むると、私の小さなたましいは久遠のいにしへより限りなき永遠への涯のはてにまで必み込むやうに融け入るのである (をばり)

### 綴方欄

雪

平第一校

尋五 腰塚 裕

昨日の事だ、朝から雨が降つてゐる、ガラス戸をあけると「さーっ」と雨が顔にぶつゝかつた、思はず「アー」と目をとぢた、目をあけてみるとお「やーっ」といつたのもむりはない、ガラス戸がしまつてゐる、後の方で不意に笑ひ聲がする、ふりかへると女中さんだ。學校にきてはまだ雨が降つてゐる、時間になつた頃急に後の方がぎやかになつた。

### 豪雨

平第一校

尋五 山崎 道雄

「やあーずぬぶん降つてゐるなアー」と言ひながら父は洋傘を手にして玄関に立つた、外は一しきり強く雨が降つて來た、父はもう外へ出てゐた、僕も支度をして出た、道路は雨の爲土があらはれて小石が一ぱい出でゐる、向の方を女學生が一人傘をつぼめて走るやうに歩いて行つた。

大和田先生の家の所までくると、先生が今外へ出やうとしてゐた「先生おはやう」とあひさつをする、先生もにこ／＼して「早いな」といひながら帽子をとつた、がう／＼と音がするどぶの水が池におちる音だらら、する分ぬれた、やつと學校に來てみると級の者はあまり來てゐなかつた。

### ヒナ人形

◎今年は驚く程安くなりました  
◎東京一流の人形師玉秀の特作品を陳列いたしました  
◎ぜひ御覧下さい……  
お待ちして居ります  
二丁目  
福 フクククヤ

### 生徒募集

- ◇卒業は一ケ年
- ◇申込は四月八日迄
- ◇入學は無試験

### 平南町

### 平産婆學校

校長 清野 キヨ  
電話三〇七番

### 東京十軒店久月の雛人形陳列

お子様方が一年中で一番楽しみみな桃のお節句が近づきました江戸の。檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今度初めて御當地へ参りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じますから値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉強を致します。

平町田町 (停車場前通り)  
平マーケット内

東京日本橋十軒店

### 久月本店直營

電話平局六〇三番

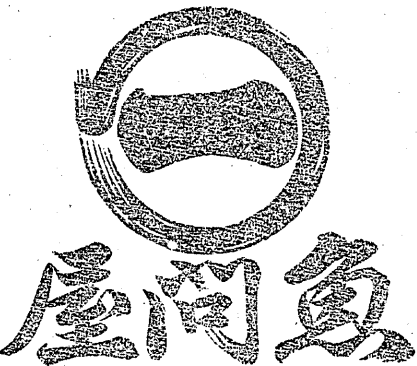
### 外科專門

### 木村科醫院

花柳病專門  
入院自炊の便あり  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番

### 磐城名産

らか鹽と節鯉



店理代平命生本日大最優最  
榮盛賀志  
番一二三電、目丁四平

平町新川端(釜屋新宅向)

内科 難波 睦  
醫學博士  
電話五〇二番

### 江戸前料理

御重入辨當  
大和漬 お鬼からやきもつやき  
御重辨當五十人分揃へました  
ゼヒ一度御試食下さい……  
出前迅速 錦水  
田町末廣東隣り(電話四五四番)



# 植田の殺人犯に

## 無罪は不當

### 市川検事けふ控訴

石城郡植田町江幡松田松治(三)高木正明(三)に係る殺人事件は去る二十三日平支部の公判で立會市川検事は松治に懲役六年、正明に同五年を求刑したの對し中島裁判長は正當防衛と認め兩名に無罪を言渡した旨既報したが市川検事は之れを不當として二十九日宮城控訴院に控訴の手續をとつた

# 平町會

## けふ午後開會

平町會は二十九日午後一時から開き左の件を附議三時閉會した

- 一、昭和六年度豫算追加の件
- 一、昭和六年度豫算更正の件
- 一、土木費年度繰越の件
- 一、寄附金採納の件

# 轉落慘死

## 無燈火の横着者

### 御齋所峠から

石城郡石住村字才鉢下駄職小林寅一(三)は二十八日午後八時植田町からの歸途入遠野村御齋所峠を無燈火の自轉車に乗つて通行中ハンドルを誤り百數十尺の高所より鮫川に轉落頭部を粉碎して即死した

# 無錢で卅圓

## 植田署に逮捕

栃木縣生れ當時住所不定菊地伸之助(三)は昨年十二月十六日夜勿來町源助町飲食店玉屋こと船生ふき方外で三十餘圓の無錢飲食をなし二十八日植田署に捕はる

# 滿洲移民の

## はこり

湯本の清野君 石城郡湯本町八仙三八清野

出して移民願ひのトツプを切つたが願書の提出を受けた縣では滿鐵の通牒により當分滿洲國移民團を組織しない事になつて居るので同君の願ひを容れる事が出来ず即日同君に對して事情止むを得ざる旨の通知を出す事になつた

# 長命收容

## けふ平支所に

既報石城郡川前村下桶賣宇佐見長命(三)が去月八日午後十三時平町ツルヤ洋品店の倉庫から石鹼八箱を窃取したのを手初めに大黒屋、高島屋洋服店その他から窃盜を働らいた事件は平署で取調中のところ二十九日午後二時平刑務支所に收容した

# 山神祭

## 各炭礦準備に忙殺

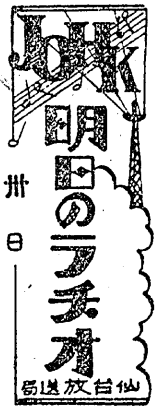
常磐炭田の地下労働者全部が地上の喜慶に亂舞する年一度の極樂日山神祭は恒例により各炭礦揃つて四月十五日から三日間行はれる晝夜の別なく地下數千尺の深所にカンテラを頼りに活動する者の最大の喜びだ家族と合して數万を數ふる彼等が眞に慰安の日である不況ものかは飲めや唄へや踊れや舞へやの存分羽をひろぐべき日とて各會社共莫

# 殘された母と子

## 軍事救護法の適用を

### 平町役場で上申

平町役場では出征軍人の家族中救護を要するものを調査中のところ仲間町六九草



明日のラジオ  
今朝氣天  
今晩は東南の風晴れたり曇つたり

# 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 童話劇 J O A K 唱歌隊
- 後六、三〇 講演
- 後七、三〇 講演
- 後八、〇〇 義太夫「三十三所花の山壺坂寺の段」
- 竹本君太夫外
- 後八、三〇 新内「安宅勸進帳」富上松加賀太夫外
- 後九、〇〇 室内樂 鈴木ワツテット

# 明日の部

- 後九、三〇 奉天より
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報
- 前九、一〇 料理献立「ピロニアラルマンド」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭談座「家計簿記」(七)大原信徳
- 後一〇、〇五 吹奏樂 軍々樂隊 指揮樂長福喜多鎮雄

側もこの命の洗濯日を如何に有効に樂く暮さうかと今から準備工夫を練つてゐるといふ有様で何處もこの期待に持ちきりである

# 狩獵法違反

双葉郡廣野村松木字東下池田平次(三)に係る狩獵法違反事件は今二十九日平區裁判所で公判開廷罪金二十圓を言渡さる

# 女給の家出

平町三丁目カフエーフジシヨの女給五丁目藤藏長女金澤とみ(三)はこの程無斷家出平署に捜査願出た

# 七割強

## 商業入學成績

平町商業學校入學試験合格者は二十九日午前八時發表されたがその内平町の合格成績は第一校が志望者四十二名に對し合格者三十一名(七割三分)第三校志望者六名に對し合格四名(六割七分)で昨年よりも好成績であつたと

# 平町人事

平町人事  
△出 出  
△仲間町六九 佐藤卯十郎  
△氏三女 ヒデ子  
△白銀町八 白土美知雄氏  
△長男 英夫  
△彌宜町六八 芳賀儀氏二  
△女 カヨ  
△材木町三九 湊紀七郎三  
△男 信夫

# 姑洗先生の

## 歓迎俳句會

好問村俳句同好者より成る十好會では四月五日午後五時から好問村上好問鈴木秀山氏宅で東京「めかこ」社安藤姑洗先生の歓迎を兼ね濱三郡俳句大會を開催に決定したが福島民支局並に内郷村麥笛吟社が後援の筈で盛會を豫想されてゐる

# 養女を種に

## 前借詐欺

### 甲子樓の御難

平町五色町遊廓甲子樓こと平野井子之松方の子守三浦まさ(三)の養父東京市深川区猿江裏町前田某は「まさを半玉にしたい」とて去る二十六日前借八十圓を借り

# 幕末剣士

【蔡轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

【第十三席】

神影流の達人秋山要介

(13)

これは變だぞ

わ組の蔦頭勝五郎は吟中を談じ付けて井口の娘との仲を割いた、それ以來吟中は井口の店の前も通らぬやうにしてゐた。此方はおまきです想ふ男の吟中に別れて以來鬱々として引籠つてゐた。

に御覽に入れて頂きます  
出したは伊香保染  
喜『有難うございます、時におまへさんに話したい事がある、此方へ来ておくれ』  
土藏前へ伴れて行き



兩親は心配して根岸の別荘に送り心利いた女中を付けて養生をさせる、吟中の出入を止めて三月ばかり経つての事でしたが、蔦頭の勝五郎が井口の店へ来て勝番頭さん御無沙汰をしました、それを見て帳場格子の間に居た支配人の喜兵衛喜『やア頭、伊香保へ行つたと云ふ事を聞いたが』  
勝『エ御成街道の佐野屋の隠居さんの供でね、草津から伊香保へ行つて来ました』  
喜『それは宜かつたなア、今年は四五年以來覺えない暑氣だ、彼地へ行つてゐれば夏知ずだナ』  
勝『然しね、二月も三月も山の中に居ると倦きますよ、四五日前にやうやく歸つて来まして早速此方に出ました、これはつまらねえ物でございますが、口』

喜『ねえ頭、おまへさんは江戸で何人といふ指を折られる火消の中の大將だナ、併しおまへの當番纏は曲つてゐるせ』  
勝『何だ、纏が曲つたと他の事とは違ふ組合の印に立てる纏が曲つたと云はれては開きすてならねえ、』

い、當時お嬢さんは根岸の寮にお在なさる、そこへ折々吟中が来るさうだ、お前さんの顔を踏付けにした所爲、へエ然うでございますかと之を聞き流す事は出来まい』  
勝『そいつは飛んでも無え事でございます、番頭さん』

どういふ譯で曲つてゐるかそいつを聞かしておくんない』  
喜『まア頭氣を鎮めて聞いておくれ、お前さんが口を聞いて吟中とお嬢さんとの手を切るやうにしてくれた其時にお内儀さんから十兩お前さんの手を経て吟中に遣つたさうだ、それでありながら未だに吟中はお嬢さんの許へ忍んで来るとはお前さんは之れを聞いてどう思ふ』  
勝『エッ、其な事はございませぬ』  
喜『イエ無いと云はせなねえ野郎だ』

冗談ではなからうナ』  
喜『何で冗談にこんな事を云ふものか』  
勝『宜うが、野郎に談判して坊主にでもして此土地に居る事の出来ねえやうにして遣ります』  
と云つたが、イヤ勝五郎の怒つた事直ぐに井口を飛び出して青石横町の吟中の許へ来た、格子をあけて飛び込んだが、突如吟中を引仆してボカボカ頭を打つたイヤ吟中はびつくりして吟『頭、何をなさいます』  
勝『ヤイこの野郎、俺に熱湯を呑したナ、義理を知らねえ野郎だ』  
ざん『まア、待つて下さい貴下に熱湯を呑した覺えも無し、義理を缺いた事もございませぬ』  
勝『義理を缺いた事が無えとは云はせねえ、俺が湯治に行つてゐる不在中に井口のお嬢さんのお在なさる根岸の寮に忍んだナ、ヤイぎ中、ためえ何と云つた悪い事をいたしました、お嬢さんの事は想ひ切つた、此後中途で逢ひましても口も聞きませぬ、憚りながらざん中も男でございます、オイヤ野郎、これが男か、俺の面を潰して、その上井口の番頭から纏が曲つたとまで云はれた』  
ざん『まア、待つて下さい、わたくしは其後お嬢さんに會つたこともございませぬ、貴下湯治にお出でなすつたその不在中から何分身體がすぐれませぬ、稽古も休みまして、醫者にばか』

り通つて居ります、それに病人の事とて夜外へ出たこととはありませぬ』  
云ふとそれへ来た母親母『事實ざん中が云ひます通り病氣で茲三月ばかり引籠つて居ります』  
勝『そんな事は無からう、床に就て居ねえ病人だ、一夜更に此處を脱出し根岸へ行くとともに出来るだらう』  
母『イエそんな事はございませぬ』  
勝『妙だナ、此件はオイヤ實か』  
ざん『決して嘘は申しませぬ』  
勝『能く面を見せてくれ、目の様子では嘘では無さうだナ、大概なことは目を見れば嘘か、眞實か判るが……變だナ、こいつは』  
勝五郎は熱々と考へた。

安イハ  
靈造花博  
臺其他盛  
人葬具  
夫人式堂  
ノ一安イハ

平五三五呼電路小龜孫平

時計眼鏡  
トキワヤ  
平一電三三九

りん病 永らく悩む人の福音  
こしけ 天下の名湯別府温泉で出来た無効返金責任薬

此薬 別府温泉

全國知名新聞 朝日、東京日々、大阪毎日、富士、雑誌 推奨 講談俱樂部、主婦之友廣告乞御參照

右は岩里家古來よりの家傳秘法薬にして男女血らし慢性淋病、こしけ、濁病の病みは不思議に止り連服するも絶對胃腸傷害なき各薬であります。

尙ほ此の薬は責任速効薬で二日内服して効なき時は殘藥引換に全部眞金返金します。

論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢性、悪性の人には七日以上服差して下さい。

美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に付前金申込者には送料無料、新品送薬す。

代金引換廿三錢手数料金納の事。

薬價 急性用(黒箱) 一週分 參圓 慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約一 平町古鍛冶町一〇  
手販賣 阿康藥舖  
縣社ノ下(電話四四番)

貸切の●●●  
御用命は?  
獅子吼(四四九)ノ勢デ  
マツサキ  
眞先ニ……(マツサキ)  
三九ニタクシーへ!!!

小兒ノかん・むしニあかひき丸堀藥局  
平町二丁目 電話三三六

吉田眼科病院  
平町三丁目 電話六八番